

コロナ禍における保育者養成校の学内サイトを活用した キャリア支援の現状と課題

奥 恵

Current Status and Issues of Career Support Utilizing for Childcare Teacher Training School Site in the Covid-19 Pandemic

OKU Megumi

キーワード：新型コロナウイルス感染症対策、キャリア支援、保育者養成、オンライン対応、教職員間の連携

はじめに

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって生活や社会全体に多大な影響が出ており、大学生の就職活動においても困難な状況が見受けられる。厚生労働省と文部科学省が2021年3月大学等卒業予定者の就職内定状況を共同で調査した結果、2020年10月1日現在での大学（学部）の内定率は69.8%（前年同期比7.0ポイント低下）であり、短期大学の内定率は27.1%（同13.5ポイント低下）と深刻な状況であった。¹⁾ 保育者養成校である埼玉東萌短期大学（以下、本学）でも延期となった実習期間と就職活動が重なり、長期的なキャリア支援が求められている。その背景には、今年度の就職活動の開始が遅れたことや、5月・6月に予定していた実習が10月から12月にかけて延期となり、その間に就職活動が進められなかったこと等が考えられる。

国から企業に対しては「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた2020年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動及び2019年度卒業・修了予定等の内定者への特段の配慮に関する要請事項」²⁾ において、説明会の必要性の検討や感染防止策、多様な通信手段の活用、柔軟な採用日程の

対応、採用内定の取消し防止等が要請されていた。しかし、保育現場においては、休園や登園自粛による対応と感染対策が続いていた為、求人情報の発信やボランティア・見学の受け入れ等が困難な状況であったと推察される。また、各自治体でも従来通りの方法で説明会やセミナーが開催できず、オンラインでの実施に切り替える為の準備の時間を要したことも就職活動の遅れに繋がったのではないかと感じている。特に、これまで動画作成やオンライン対応を実施したことがない保育現場からは、学生と出会うきっかけや情報発信をする場面が減ったという意見も受けている。

本学においても、年度当初に就職活動への不安を感じている2年生の様子が見受けられた。その為、5月から本学の在学生向けのサイト「SAITAMATOHO.NET」内に「キャリア支援」コースを開設し、学生が自宅でも求人情報等を確認できるオンライン環境を整えることで、少しでも不安を解消できるよう心掛けた。また、学年別登校日に学生個別のキャリア支援担当教員、及び保育所や施設等の専門領域に関する質問に対応できる担当教員を伝え、5月から6月にかけて電話によるキャリア相談を行った。その後、6月に対面授業を開始してからは、キャリア支援担当教員と専門領域担当教員が連携し、情報を共有しながら個別のキャリア支援を継続してきた。学内の実習・キャリアセンターでは、求人票や卒業生の状況が記載された保育所等のポスター、説明会のチ

ラシ等を確認できるよう整備したが、例年に比べてセミナーや説明会、ボランティアの受け入れ、求人票等が減少していることが課題であった。また、就職希望先のホームページに見学や採用情報が掲載されていない場合もあり、就職先の選び方に悩んでいる学生からの相談も多かった。7月には今後の就職活動の流れや関連書類の手続きの説明をホームルームで行い、求人票の問い合わせや取り寄せについてもキャリア支援課でサポートすることによって、就職先と出会うきっかけを持てるようにした。この頃からは、徐々に感染対策を踏まえたセミナーや説明会が実施されるようになっていたが、参加することに不安を感じる学生もいた。

次に、本学で取り組んでいるキャリアサポートプログラムについては、保育現場で働く卒業生が業務内容や近況について語る2年生向けの「就職直前講演会」の開催を検討し、卒業生からのメッセージ動画等を学内サイトに掲載する方法に変更して実施した。また、本学の教員が働く意義や保育所や幼稚園等の概要について説明する1年生向けの「就活スタートアップ講座」では、各職種の説明スライドを作成して学内サイトに掲載することとした。11月・12月のプログラムについては、複数会場に分散して対面で実施することができた。

次年度においても、対面やオンラインでの実施方法を検討し、様々な状況に対応してキャリア支援を行っていく必要があると考えられる。その為、本研究では、今年度の学内サイトを活用したキャリア支援について2年生を対象として質問紙調査を行い、次年度に向けた課題や改善を考察することとした。

目的

本研究は、今年度新たに本学の在学生在が視聴できる学内サイトとして開設された「SAITAMATOHO.NET」内の「キャリア支援」コースについて学生からの意見・要望を把握し、今後のキャリア支援の改善等を検討することを目的とした。

方法

キャリア支援に関する意見や要望を集約する為に、本学の2年生を対象とした質問紙調査を2020年10月27日に実施した。有効回答数は53名であった。

質問内容は、①「SAITAMATOHO.NET」の「キャリア支援」コースの掲載内容について見たことがあるものについて、②「キャリア支援」コースの情報が就職活動の参考になったかどうかについて、③卒業生に聞いてみたい情報について、④「キャリア支援」コースにどのような情報の掲載があると良いかについて、⑤希望職種について、⑥本学のキャリア支援の満足度について、⑦就職活動で不安を感じたことや感じていることについて、⑧本学の教職員からキャリア支援を受けたい内容について、⑨学外の団体・個人（卒業生を含む）等からキャリア支援を受けたい内容について、⑩登録・活用している求人サイトについての10項目である。

研究における倫理的配慮については、以下のことを遵守し行った。事前に研究対象の学生には、研究の主旨、研究者連絡先、個人情報の保護、研究協力への自由意思を説明した。本研究に関わって収集した資料・データ等の管理には万全を期すとともに、研究上知りえた個人情報を他に漏らさないようにした。個人が特定される方法・表現は避け、研究倫理に配慮した。また、学校法人小池学園研究倫理公正委員会の倫理審査と承認を受け実施した。

結果と考察

1. キャリア支援に関する質問紙調査の結果と考察

(1) 「SAITAMATOHO.NET」の「キャリア支援」コースを見たことがあるか（複数回答可）

「SAITAMATOHO.NET」の「キャリア支援」

コースの掲載内容で見たことがあるものについて回答を求めたところ、「a. キャリア支援課からのお知らせ」30名、「b. 求人情報」25名、「c. 卒業生メッセージ動画」7名、「d. 保育園紹介動画」7名、「e. 見たことがないものがある」9名であった。見たことがない理由については「知らなかった」4名、「必要なところしか見えない」2名、「開いていないから」2名、「存在に気付くのが遅かったから」1名の記述があった。

これらの結果について、「a. キャリア支援課からのお知らせ」を見たことがある学生が最も多かったことは、この内容が掲載された5月がコロナ禍によって在宅学習を余儀なくされていた時期であった為、学内サイトを活用している頻度が高かったこと、就職活動をどのように始めたらよいのか分からない等の不安を抱える学生が「キャリア支援」コースで情報を確認していたこと等が想定される。

「b. 求人情報」については、5月から求人票が届き次第、順次掲載していたが、例年に比べて求人数が少ないことが課題であった。特に、休園している幼稚園や見学等の受け入れが困難な施設等からの求人は遅れており、一部の保育所からの求人では学生の希望地域に当てはまらず、希望先が見つけれない不安の声も挙がっていた。しかし、コロナ禍でも届いている求人があることを確認できる環境は必要であったと感じている。6月に対面授業が再開されてからは、学内の実習・キャリアセンターに置かれている求人ファイルでも確認することができるようになった為、サイトで閲覧する学生が増えなかったのだと考えられる。対面授業が再開されてからは、担当教員との面談を経て、学生たちは希望の職種や就職先を決定していくことができていた。

次に、本学では例年6月に開催している2年生を対象としたキャリアサポートプログラムがあり、今年度も保育現場で勤めている卒業生を招いた講演を予定していたが、感染防止の為にオンライン動画に変更し「キャリア支援」コースに掲載することにした。その内容が「c. 卒業生メッセージ

動画」である。5月に実施を検討し、卒業生で保育所に勤めている2名、幼稚園1名、乳児院1名の計4名に、就職先を選んだ理由や勤務内容、在学生へのアドバイス等についてコメントを撮影した動画やPowerPointでのスライドを依頼した。特に、感染防止に配慮して訪問取材を行う許可を得ることや、多忙な中で卒業生との連絡や打ち合わせをすること、スライド作成や動画編集、就職先の確認等に時間を要し、全てのメッセージ動画が完成したのは10月であった。完成した動画から順次掲載していたが、実習期間に入っていた学生もいた為、全ての動画が準備できたことの告知は11月の実習終了後になった。その為、視聴した学生が少なくなってしまうのだと考えられる。

「d. 保育園紹介動画」については、株式会社NOTCHの保育士BOOK担当者と協力し、埼玉・東京エリアの保育所・認定こども園(12施設)に紹介動画の提供を依頼した。特に、本学の卒業生が勤めている園からは卒業生メッセージ動画も合わせて提供いただいた。動画は園が独自に作成していたものや保育士BOOK担当者が司会を務め、ZOOMでのオンライン通話での紹介を録画したもので、各施設の概要、保育の特色、施設内の様子、保育者へのインタビュー、求人や見学の情報等の内容が含まれていた。「キャリア支援」コースには9月末に掲載し、後期の授業が開始してから学生への周知を行った。その時点で就職先や希望先が決定している学生もおり、関心のある学生だけが視聴したと推測されるが、動画を観て見学に行った学生もいた為、紙面以外の紹介方法も準備しておくことで興味を持つきっかけになると考えられる。

「e. 見たことがないものがある」については、aからdのいずれかを選択していない学生が選択すると予想していたが、内容そのものを知らない学生や「キャリア支援」コースを開いていない学生が一部回答したと考えられる。登校日のホームルームや対面授業再開後の休み時間等に告知はしてきたが、周知が十分ではなかったことが明らかになった。

(2) 「キャリア支援」コースの情報が就職活動の参考になったか（1つ選択して回答）

「キャリア支援」コースの情報は、就職活動の参考になったかどうか、当てはまるものについて回答とその理由を求めたところ、「a. とても参考になった」と回答したのは11名で、その理由は「文章だけでなく動画で見ることによって理解が深まりました」、「求人情報をたくさん見れた」、「親切に教えてくださった」、「こまかく書かれていた」であった。次に、「b. 参考になった」と回答したのは27名で、その理由は「分かりやすく掲載してあった」、「就職先の求人票があったから」、「分かりやすく掲載されていた」、「細かく書かれていたから」、「園見学に行くのに参考になりました」、「わかりやすかった」であった。また、「c. あまり参考にならなかった」と回答したのは7名で、その理由は「ほぼ進路が決まっていたから」、「見ていない」、「今回は必要ありませんでした」、「地域が希望していたものではなかったから」であった。そして、「d. 全く参考にならなかった」と回答したのは5名で、その理由はいずれも「見ていない」であった。無回答は3名であった。

これらの結果を割合で見ると、回答者53名中「a. とても参考になった」11名の21%と「b. 参考になった」27名の51%を合わせた、38名の72%が参考になったと回答しており、「c. あまり参考にならなかった」7名の13%と「d. 全く参考にならなかった」5名の9%を合わせた12名の22%は参考にならなかったと回答している。無回答が3名の6%であった為、正確な判断はできないが、概ね参考になったと考えられる。また、あまり参考にならなかった理由の中で、今後「キャリア支援」コースの改善に必要なことは、学生の希望地域に当てはまる求人意識する点である。そして、コースを開いていない、見ていない学生たちへの内容の周知やアピール方法について、今後、検討していく必要がある。

(3) 卒業生に聞いてみたい情報（複数回答可）

卒業生に聞いてみたい情報について回答を求めたところ、「a. 就職先の選び方」17名、「b. 試験内容や対策」18名、「c. 就職先情報（仕事内容、福利厚生など）」25名、「d. 就職後の状況」34名、「e. その他」1名で「保育士・幼稚園教諭の資格以外で持っている資格について」という意見であった。

これらの結果から、半数以上の学生が卒業生に聞いてみたい情報が就職後の状況であり、その他に就職先情報や就職先の選び方、試験内容や対策についても関心があると分かった。就職後の状況が最も多かった点については、就職先とのマッチングがどうか、仕事のやりがいや大変なことは何か、人間関係は良好か等から自身が働いていける環境であるかを検討したいのではないかと考えられる。つまり、就職活動における不安は、就職できるかどうかだけではなく、就職後に続けていけるかどうかの不安を緩和する必要があると言える。その対策として、卒業後1年目の状況や中堅保育者のやりがい等、勤務年数の異なる卒業生メッセージを準備することで、キャリア形成の見通しを持つことができるのではないかと考えられる。

(4) 「キャリア支援」コースへの情報掲載の要望（複数回答可）

「キャリア支援」コースにどのような情報の掲載があると良いかについて回答を求めたところ、「a. 就職活動のスケジュール」18名、「b. 求人票の見方」17名、「c. 持ち物、身だしなみ」15名、「d. 就職活動時のメイク」8名、「e. 電話の掛け方」21名、「f. 試験対策（面接、小論文例など）」25名、「g. 就活関連書類の見本（履歴書、自己PR例など）」34名、「h. 就活情報サイトのリンク（ハローワークなど）」4名、「i. 社会人マナー」12名、「j. その他」は0名であった。

これらの結果について、最も回答の多かった就職活動の関連書類の見本となる履歴書や自己PRの例文などは、1年次のキャリアサポートプログ

ラムとして12月と1月に履歴書・自己PRの書き方の講座と個別の履歴書添削を実施している。しかし、就職活動を行う2年次には自己PRの記載内容が変更になることや、書き方を忘れてしまっていることもある為、各自の履歴書等の書類作成時期にいつでも確認できるよう資料を掲載しておく必要があると感じられた。次に回答の多かった試験対策については、各学生のキャリア支援を担当する教員が、試験内容に合わせて面接練習や小論文指導を行っている。今後、その指導を受ける前に学生自身で質問に対する回答の準備ができるよう、質問・問題例の資料等を掲載しておくことで、指導を受ける前の準備や教員間の指導の共通理解が深まると考えられる。

また、電話の掛け方については、実習時のオリエンテーションの電話の掛け方では、本学の『実習ハンドブック』に記載されている見本で練習しており、学生も実習先への電話を経験している。しかし、就職活動における電話でのやり取りは、見学の依頼や求人情報の問い合わせ、受験希望の連絡や受験後のお礼の連絡等、状況や内容が多岐に渡る為、見本を作成することが困難である。今後、資料作成については、臨機応変な対応が求められること、電話での言葉遣いや丁寧さが第一印象となることを伝えつつ、確認事項や留意点をまとめる方法で検討していくこととする。

(5) 自分の希望職種（複数回答可）

学生自身の希望職種について回答を求めたところ、「a. 保育士」42名、「b. 幼稚園教諭」12名、「c. 保育教諭」9名、「d. 一般職」4名、「e. その他」1名は「施設職員」であった。

この結果について、乳児院や児童養護施設等への就職を希望している学生は「e. その他」1名だけでなく「a. 保育士」にも含まれていると思われるが、保育士希望の学生が最も多く、次いで幼稚園教諭と保育教諭、一般職希望の学生も一部いることが明らかになった。その内、「a. 保育士」、「b. 幼稚園教諭」、「c. 保育教諭」の全てを選択していた学生が6名いた。また、「d. 一

般職」と回答した4名の内2名は「a. 保育士」も選択しており、幅広く就職活動をしている学生や希望先に悩んでいる学生の様子が伺えた。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって一般職の求人が少ない為、保育士も選択している学生がいる。今後も一般職を希望する学生のキャリア支援については、早期の把握を心掛けるが、本人が納得して進路選択を行えるよう支援していくことが求められる。

また、一般職と回答した学生は、上記の(2)「キャリア支援」コースの情報が就職活動の参考になったかについて、「c. あまり参考にならなかった」、「d. 全く参考にならなかった」を選択していなかった為、参考にならなかったことは職種による理由ではないと考えられる。

(6) 本学のキャリア支援の満足度（1つ選択して回答）

本学のキャリア支援の満足度で当てはまるものについて回答と理由を求めたところ、「a. とても満足」と回答したのは20名で、その理由は「進路について分かりやすく、園見学の参考になったから」、「とても良かった」、「手厚い支援がとても心強い」、「寄り添ってくれた」、「優しく教えてくれた」、「とてもよかった」、「親身になって一緒に考えてくれたから」、「親身に相談にのってもらえるから」、「電話をしてくれたり、細かくサポートしてくれたため」、「いつ何を聞いても答えてくれる」であった。次に、「b. 満足」と回答したのは21名で、その理由は「詳しく説明してもらったから」、「担当の先生のフォローにとっても助けられたから」、「スムーズにできた」、「いつでも空いているから」、「不満ではないので」、「みんな優しい」、「色々教えてくれた」であった。また、「c. やや満足」と回答したのは10名で、その理由は「ほとんど一人で就活を行った」であった。そして、「d. やや不満」と回答したのは1名で、その理由は「少し伝えるのが遅いときがあります」であった。「e. 不満」は0名、「f. とても不満」は0名、無回答は1名であった。

この結果を割合で見ると、回答者 53 名中、「a. とても満足」は 20 名の 37% で、次に、「b. 満足」は 21 名の 40%、「c. やや満足」は 10 名の 19% で、「d. やや不満」1 名は 2%、無回答 1 名が 2% であった。このことから、「a. とても満足」37% と「b. 満足」40% を合わせると 77% となり、概ね学生はキャリア支援に満足していることが示された。次に、どのような点が満足に繋がっているか理由を分類したところ、「a. とても満足」と「b. 満足」に回答している学生の中では、「手厚い」、「親身に」、「寄り添い」、「優しい」等の支援の親切さ、関わりの温かさに関する記述が見られた。また、「細かく」、「分かりやすく」、「詳しく」、「いつ何を聞いても」、「いつでも」、「スムーズ」等の対応の丁寧さや迅速さに関する理由も感じられた。「c. やや満足」で理由を記述していたのは 1 名であったが、「ほとんど一人で就活を行った」という回答には、キャリア支援の必要がなかったという場合もあるが、支援が不十分であった可能性も考えられる。また、理由の記述がないことについては、書きにくい理由があった可能性も否定はできない。「d. やや不満」と回答した 1 名は「少し伝えるのが遅いときがあります」という理由であり、恐らく就職活動に関わる情報提供や対応の伝達の遅れを意味していると考えられる。上記で満足に繋がる理由の一つとして、迅速さが含まれているのではないかと考察したが、遅れを感じている意見があった為、今後のキャリア支援の課題であることが示された。そして、学生に対して温かく丁寧な関わりを心掛けていけるよう教職員間で共有していく必要がある。

(7) 今年度の就職活動の不安（自由記述）

就職活動で不安に感じたこと、感じていることについて自由記述での回答を求めたところ、最も多かったのは就職試験の面接に関する不安で、「面接で緊張してしまって言葉がでなくなりそうで不安です」、「うまく話せるかどうか」、「面接の質問」、「面接時の入退出の仕方」等の回答が 10

名あった。近年、保育者不足の影響により、試験内容から実技を減らし、面接を重視することで受験し易いようにしているという意見が就職先から寄せられている。なかには、対応者を代えて面接試験を 2 回する場合や、面接のみで試験を行う場合も増えている。このことで、受験し易いと感じる学生もいれば、面接で上手く話せなかったら落ちてしまうと不安になる学生もいるのだと思われる。本学では、「キャリアデザイン」の選択科目の他に、1 年生を対象とした面接練習の講座を 1 月に実施している。その際に、お辞儀の仕方や面接時の受け答え等については実践しているが、就職活動の際に個別指導がより丁寧に行えるような支援体制を検討していく必要があると示された。

次に多かったのは就職希望先の選択に関する不安で、「どこが良いのか選ぶこと」、「どこに行きたいのか分からない」、「何を決め手にすればいいのか分からないです」、「通える範囲で自分が希望する園が見つかるかどうか」、「選んだ所が本当に良い園なのか」、「沢山あって本当にこの園で良いのか」、「探しづらい」等の回答が 7 名あった。就職活動に悩む学生の中には、試験や働くことに対する不安だけでなく、自分がどうしたいのか、どこに行きたいのかが分からないという悩みを抱えている学生もいる。今後、そのような学生が将来のビジョンを持ち、自ら進路を選択できるよう、キャリア形成に向けた支援を充実させる必要がある。その為には、授業や実習での学びや経験を振り返る際に、進路選択や理想の保育者像と繋げていく視点や体験の整理を支援していく必要があると考えられる。就職先を選択する決め手については個人によって異なる為、卒業生メッセージ動画や園紹介動画等の参考にできる情報を掲載することや、コロナ禍であっても安全に見学やボランティア活動を行うことで、視点を広げる機会を増やせるよう就職先との連携を深めていきたい。

その次に多かったのは、就職活動の状況を周囲と比較したり、決まらないことの焦りに関する不安で、「初めての園見学を最近行って、人よりも就職活動が遅れているか不安」、「周りがどんどん

就職が決まって、自分だけ取り残されていることが不安」、「周りの人たちが内定をもらい始め、焦ってしまった」、「決まらなくて焦りがすごい」、「就職先がなかなか決まらなかったこと」、「実習が多くあまり活動できていないし、行きたい保育園にまだ行けていない」等の回答が6名あった。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2年生の5月・6月の実習が延期となり、10月から12月にかけて順次、3回の実習を行っている状況であった。その影響で、就職活動が進まないことに対する不安は高いと推察される。今後、教職員間でこのような焦りを感じている学生の心情を共有し、支援する際の言葉掛けや対応の配慮を慎重に行う必要がある。また、就職活動については、「急に準備をしてよく分からないまま就活を終えたこと」、「急に物事が進んでいたのが何だか分からずに進みました」、「何も分からないし、スタート時期もあいまいだったこと」、「就職・就活時期はいつなのか、いつまでに内定をもらえればいいのか」等のスケジュールの不明瞭さに関する不安の回答も4名あった。このような就職活動時期に関する不安は、コロナ禍の影響が強いと感じる。特に4月から6月頃は、感染防止に努めながら就職活動をどのように行うか、保育者養成校や就職先でも見通しを持ちにくい状況であった。就職希望先がオンラインでの説明会や見学の受け入れを実施していた学生は、スムーズに就職活動をできていた。しかし、希望地域の求人情報が見つからない学生や、説明会やセミナーが中止となったり、対面で開催されていても参加することに不安を感じる学生たちは、きっかけが見つけられずに悩んでいた。その為、今年度は本学の実習・キャリアセンターの職員が、求人票の確認や取り寄せを支援し、就職先とのマッチングを丁寧に行うようにしている。

その他に、就職活動の準備・方法に関する不安として「電話の掛け方」、「履歴書があっているのか」、「服装」等が4名、試験の結果に関する不安として、「定員に入れるかどうか」や試験に落ちるのではないかなどといった回答が4名、就職先に

対する不安として「人間関係」等が2名、「先生の対応がいいかげん」が1名であった。就職活動の準備・方法に関する不安については、「キャリア支援」コースに履歴書や身だしなみの見本を掲載する対応を進めていく必要がある。また、教員の対応に関する不安については、今後、意見を共有して見直すことや複数の担当教員で学生を支援していく体制を整える必要があると考えられる。

(8) 本学の教職員からキャリア支援を受けたい内容（自由記述）

本学の教職員からキャリア支援を受けたい内容について回答を求めたところ、「就職先の選び方」3名、「面接」2名、「園見学のこと、園の相談等」、「どう電話したらいいか」、「出身の卒業生がいるか」、「本学で行った実習先の実習報告書がリアルタイムで見れると就職活動にも役立つと思います」等が各1名であった。

これらの結果について、就職先の選び方と面接については、就職活動で不安を感じていることでも回答が多かった為、より丁寧で分かりやすい支援が必要であると感じられた。特に、就職先の選び方に悩む学生には、幼稚園や施設等の各専門領域の教員の視点や卒業生のいる就職先等の情報を活かした支援ができるよう連携を強めていくことが望まれる。また、本学では実習後に学生が実習報告書を作成し、学内サイトにデータで提出するが、実習先からの評価が届き、教員が個別の実習事後指導で活用した後で全学生が閲覧できるファイルに綴じる為、実習後すぐには見ることができない状況である。しかし、就職先の情報を得たい学生にとっては、他の学生の実習報告書を早く確認したいと感じているのであろう。今後、書類整理の流れや方法を検討していく必要があると感じられた。

(9) 学外の団体・個人（卒業生を含む）等からキャリア支援を受けたい内容（自由記述）

学外の団体・個人（卒業生を含む）等からキャリア支援を受けたい内容について回答を求めたと

ころ、就職先の選択に関する「自分の希望職種の人と交流して話を聞きたい」、「卒業生の就職先の選び方など」、「就職の決め方について」の回答が3名あった。また、就職後の状況やマッチングに関する「就職後の状況」、「就職1年目の内容は何か」、「働いてみてどうか」の回答が3名あった。その他に「園の求人について」の回答が1名あった。これらの結果について、就職先の選択は、教職員からキャリア支援を受けたい内容の質問項目でも回答があったが、就職1年目の卒業生に業務内容や働きやすさ、マッチングの意見等を聞きたいと考えている学生もいることが明らかになった。しかし、就職1年目は職場の環境や人間関係、業務内容に慣れるまで大変な時期である為、状況を知ることによって在学生の就職に対する不安が高まる可能性も考えられる。大変な状況でも就職先の先輩方からのアドバイスや研修制度があること等、安心できる情報と合わせて伝えていく方が良いと感じる。

(10) 登録・活用している求人サイト（自由記述）

現在、登録や活用している求人サイトの名称について回答を求めたところ、「ハローワーク」4名、「保育士バンク」3名、「保育士WORKER」2名であり、「保育士求人ナビ」、「保育ひろば」、「マイナビ」、「保育士BOOK」が各1名であった。回答者数は10名で、その中でも複数登録・活用している学生は3名であった。近年、保育職の求人サイトが増加し、活用している学生も一部いることが明らかになった。本学では、求人サイトの活用について勧めてはいないが、大学に届く求人が少なかった時期に、学生がインターネットを通じて求人検索を行い、登録をしていたのではないかと推察される。

今後の課題

本調査では、今年度新たに埼玉東萌短期大学の在学生在が視聴できる学内サイトとして開設された「SAITAMATOHO.NET」内の「キャリア支援」

コースに対する学生からの意見や要望を把握し、今後のキャリア支援の課題や改善点を検討することを目的として、2年生を対象とした質問紙調査を実施した。

その結果、「キャリア支援」コースに掲載されている情報が参考になったと回答した理由には、「分かりやすさ」や「細かさ」といった言葉が挙げられていたが、一方で、参考にならなかったと回答した理由には、既に進路が決まっていたことやコースを認知していなかったこと、内容への関心が低かったこと等が明らかになった。今後は、掲載時期を早め、年度当初の就職活動に対する不安が高い時期に学生へ周知し、その後も定期的にホームルームや一斉連絡メール等を通じて学生全体へ発信していく方法を検討していく必要がある。

次に、「キャリア支援」コースに、今後、掲載を求める意見として、求人票の見方、履歴書や自己PR等の就職活動関連書類の例文が挙げられていた。これらは、各自の必要な時期にいつでも見直すことができるよう、分かりやすい資料を掲載しておくことで安心できるのではないかと感じられた。電話の掛け方についても資料掲載の要望が挙げられていたが、就職活動における電話での受け答えは臨機応変な対応が求められる為、確認事項や留意点をまとめる方法で資料を検討していくこととする。その他に、試験対策として面接でよく聞かれる質問例や小論文の問題例等の資料を掲載しておくことで、キャリア支援担当教員からの個別指導を受ける前の準備や教員間の指導の共通理解に繋げることができると考えられる。また、求人票については、本学に届いた全てを掲載することは、データ容量の多さから困難であろう。しかし、実習先や就職先として関係の深い園や施設等の求人票を掲載していくことは、信頼関係のある安定的な就職先の確保に繋がると考えられる。さらに、教員が推薦する就職先の共通認識を図ることも可能となる。

今年度のキャリアサポートプログラムの一部の講演・講座を、教員や卒業生によるオンライン動画やPowerPointを用いたスライドショーに変更

して実施した取り組みについての課題は、作成に時間が掛かること、自由に視聴できる環境では学生全員の視聴を促すのが困難になることであった。保育園紹介動画についても、撮影の協力が不可欠である為、今後、保育現場が多忙な年度当初に動画を依頼・作成することは負担となるだろう。しかし、次年度においても新型コロナウイルス感染症の影響によってボランティア活動や見学、セミナー参加等が困難な状況であれば、就職活動を始め6月以降に掲載していけるよう計画的に進める必要がある。

学生が卒業生に聞いてみたい情報については、就職後の状況（業務内容や働きやすさ、マッチング）や就職先情報、選び方、試験内容とその対策等が挙げられていた。今後、学生が感じている就職できるかどうかの不安だけではなく、就職後に続けていけるかどうかの不安に対しても緩和できるよう、卒業後1年目の勤務状況や中堅保育者のやりがい等、勤務年数の異なる卒業生メッセージを準備し、キャリアの見通しを持てる情報を提供していくことは、就業意欲やキャリア形成に効果があると考えられる。特に、卒業後1年目の情報を提供する際には、就職先の先輩方からのアドバイスや研修制度があること等、働くことに安心感を持てる情報と合わせて伝えていく方が良いと感じる。就職希望先の選び方についても、今後、学生が将来のビジョンを持ち、自ら進路を選択できるよう、キャリア形成の視点を持って支援を充実させていく必要がある。その為には、学生が授業での学びを活かして実習での経験を積んでいくことや、実習での発見や気づきを授業の学びと結びつけて理解していくことを丁寧に行い、事後面談等で進路選択や理想の保育者像のイメージを広げていけるよう体験の整理を支援していくことも積極的に行っていきたい。

また、今回の調査では、本学のキャリア支援について学生たちが概ね満足していることが示された。満足に繋がる理由として温かく丁寧な関わりや迅速さが挙げられた為、引き続き、教職員間で共有・連携に取り組んでいく。その際に留意すべ

きなのは、学生が就職活動の状況を周囲と比較し、決まらないことの焦りに対する不安を感じているということである。今後、教職員間でこのような焦りを感じている学生の心情を共有し、支援する際にプレッシャーを与えないような言葉掛けや周囲に就職活動の状況が知られないように対応する等の配慮を行う必要がある。その他に、学生からは就職試験の面接に対する不安の意見が多く挙げられていた為、面接時の振る舞いや質問例の掲載資料や卒業生からのアドバイス動画等を活用した丁寧な個別指導を行っていききたい。指導内容を資料で共有できることによって、キャリア支援担当教員と面接練習の都合が付かない場合でも他の教員が対応でき、迅速な支援の連携を行うことも可能になる。また、就職先を選択する決め手についても、幼稚園や施設等の各専門領域の教員の視点や卒業生のいる就職先等の情報を活かした支援ができるよう連携を強めていくことが望まれる。さらに、卒業生メッセージ動画や園・施設の紹介動画等、参考にできる情報を掲載することで、学生は様々な視点を得ることができ、主体的に選ぶ力を身に付けていけるのではないかと考えられる。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、キャリア支援の実施方法が一部オンラインとなったが、新たな取り組みによって卒業生や信頼関係のある園からの情報提供や連携を深める支援方法に気付くことができた。次年度も引き続き、コロナ禍であっても安全に、安心して就職活動ができるよう、連携を深めて課題に取り組んでいきたい。

引用文献

- 1) 厚生労働省、文部科学省「令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（10月1日現在）」、2020.11.17.
- 2) 内閣官房内閣審議官、文部科学省高等教育局長、厚生労働省人材開発統括官、経済産業省経済産業政策局長、「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた2020年度卒業・修

了予定者等の就職・採用活動及び 2019 年度
卒業・修了予定等の内定者への特段の配慮に
関する要請について」、2020. 3.13.

奥 恵 (埼玉東萌短期大学専任講師)